平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	環境情報学特別研究			授業コード	M521606
担当教員名	福島　学			科目ナンバリングコード	R40403
配当学年	1・2	開講期	通年		
必修・選択区分	必修	単位数	10		
履修上の注意または履修条件	学部で修得した基礎の上に学修を積み上げることの意味を理解するために，自分の卒業研究論文を学修進捗に応じて適時更新することが必要です．				
受講心得	学びとは「情報を頭に詰める」ことではなく「利活用できる」ように，内容理解，意義・意味の発見，応用・展開の論理的展開，検証と評価，連関力と適応力，が必要である．このため，学んだ内容を実際に確かめることが必要です．				
教科書	適時指示します．				
参考文献及び指定図書	自らの研究成果で公刊された資料．				
関連科目	社会課題解決につながる全ての科目				

授業の目的	本学の教育理念である産学一致に基づき，社会課題に対する解決策を考え抜き，実施できる人財となることが大きな目的である．本科目はその中で修士課程に相応しい「専門分野」の確固たる基礎に基づく論理的思考力と実践力を修得することを目指す．
授業の概要	基礎理論を知識として修得するだけでなく，それを利活用できる「知恵」に昇華させることが本科目の目的である．このため，課題発見力，課題理解力，基礎理論の理解と実践力，課題に応じた組み合わせと検証に基づく評価力，解決策の展開力，を通して社会が必要とする社会人基礎力および専門分野を修了したに相応しいスキル修得を行う． 原則的に実施結果は対外的に公表し，産学一致を自己評価しながら進めます．

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 自己紹介 これまでの研究成果に基づいてエビデンスに基づく自己の紹介を行う．	予習：これまでの学びの成果を資料化する． 復習：特別研究としての計画を策定する．
第 2 週 ： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む．	予習：実績に基づく計画を策定する． 復習：計画と実施結果の差異について評価する．
第 3 週 ： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む．	予習：実績に基づく計画を策定する． 復習：計画と実施結果の差異について評価する．
第 4 週 ： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む．	予習：実績に基づく計画を策定する． 復習：計画と実施結果の差異について評価する．
第 5 週 ： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む．	予習：実績に基づく計画を策定する． 復習：計画と実施結果の差異について評価する．
第 6 週 ： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む．	予習：実績に基づく計画を策定する． 復習：計画と実施結果の差異について評価する．

第 7 週 ： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む.	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第 8 週 ： 振り返り これまでの取組み成果を評価する	予習：振り返り用資料を作成する. 復習：評価結果に応じて当初計画を更新する.
第 9 週 ： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む.	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第10週： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む.	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第11週： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む.	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第12週： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む.	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第13週： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む.	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第14週： 課題発見／基礎理論修得／解決策策定／検証と評価／展開／公表 進捗に応じて必要項目に取り組む.	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第15週： 振り返り これまでの取組み成果を評価する	予習：実績に基づく計画を策定する. 復習：計画と実施結果の差異について評価する.
第16週： 課題取組み 指定された課題を提出する.	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅰ：ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①社会課題の本質に気付くための洞察力と注意力を持ち，解決に向けた論理的かつ具体的な取り組みを実施し，その結果を評価することができる.
【知識・理解】	②社会課題の本質を理解するために必要な基礎知識を利活用できる程に理解し，解決に向けた取り組みが行え，さらに解決した事例を蓄積し新たな知を創造できる.
【技能・表現・コミュニケーション】	③専門分野に関して必要なスキルを修得するために必要なコミュニケーションが構築でき，また自ら発見した事柄を展開するのに必要なコミュニケーションが構築できる.
【思考・判断・創造】	理にかなった思考を進めることができ，エビデンスに基づく適切な判断と，それらから導かれる創造ができる.

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**25点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**25点**		
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**25点**		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**25点**		

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	修士特別研究の前提である「社会課題」に対して提出物が解決に向かうと確認できる数値的根拠が適切に示されているかと，その数値を評価する．
発表・その他（無形成果）	報告は原則「資料化」することとするため，無形成果は存在しない．但し，速報的内容で資料化が間に合わない場合は，学術会議のガイドラインに従って評価する．